

二〇二六年二月一四日

路地親し雪解雫のにぎはへり	康子
雪景色まあるく嵌めし円月橋	むべ
せせらぎの岩といふ岩雪帽子	澄子
梅林の眼下に靄る屋敷町	せいじ
門前の出汁の匂ひや春の昼	なつき
堰落つる春水綺羅をまき散らし	えいじ
春風に尾をなびかせるポニーかな	ぼんこ
奥院へ足を伸ばせり梅日和	康子
天領の末黒野雨に匂ひけり	うつぎ
池涸れて針山なせる蓮の骨	むべ
酒蔵の太きうつばり春寒し	わかば
春の宮京の名酒の樽並ぶ	もところ
畦焼きや真直ぐ鎮守へ続く道	うつぎ

吟行後日句会みのる選

二〇二六年二月一四日